

**Citation:** Bolla M, Muller-Bolla M, Borg C, Lupi-Pegurier L, Laplanche O, Leforestier E. Root canal posts for the restoration of root filled teeth. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2007, Issue 1. Art. No.: CD004623. DOI:10.1002/14651858.CD004623.pub2.

**CRG名:** Oral Health

## [最新版\(英語版\)はこちら](#)

**英語版最終改訂年月:** 1 November 2006

**Clib issue No.;** N/U: 2008 issue 1; -

**背景:** 歯内療法が行われた歯の修復のために用いられる築造は、金属ポストか非金属ポストとコアシステムによって行われるが、個々の症例においてのどちらを選択するかのガイドラインは存在しない。

**目的:** 歯内療法が行われた歯を修復するためのさまざまなポストコアシステムの有効性を評価する。このレビューの主目的は、種々のポストの臨床的失敗率を比較することである。

**検索戦略:** Cochrane Central Register of Controlled Trials (CENTRAL) (コクラン・ライブラリ 2005年, 第3号)、MEDLINE (1966年~2005年9月まで)、Scopus (1985年1月~2004年12月まで)、EMBASE (2004年12月まで)を検索した。論文の参考文献と歯科学会の抄録を一覧した。その分野の研究者と製造会社と連絡を取った。

**選択基準:** 種々のポストが装着された歯内療法が行われた永久歯における失敗を比較したランダム化または準ランダム化臨床試験(RCTs)。アウトカムは、脱離、ポストの破折、歯根破折であった。

**データ収集と分析:** 2人のレビューア (Michele Muller-Bolla (MMB) と Cybele Borg (CB)) が独立して研究の質の評価を行い、データの抽出を行った。研究の著者に追加情報を得るためにコンタクトをとった。

**主な結果:** 317人の被験者を含む2つの試験が採用され、それらのうちの一つのみが、200人の被験者で、金属ポストを非金属ポストと比較していた。もう一つは、副次的な目的に答えるものであった。失敗のリスクは、カーボンファイバーポスト(0/97)に比べて金属ポスト(9/98)がより高かったが(リスク比(RR)0.05(95%信頼区間(CI)0.00-0.90))、バイアスが潜むリスクが高かった。よって、非金属ポストが用いられたときにより失敗が少なかったものの、このエビデンスは信頼性に乏しい。

**レビューアの結論:** 我々が行ったシステマティックレビューでは、象牙質が2壁または3壁残っている場合に、どのポストコアシステムが用いられるべきかを明確にできなかった。ファイバー強化型ポストコアシステムが優位かどうか、種々のポストコアシステムの治療効果に対して、残存歯質の構造(形態)がどの程度影響するのかを明らかにするためには、より多くのRCTが必要である。象牙質壁の数(2または3)に焦点を合わせた明確な選択基準が用いられるべきである。

(翻訳 今井照雄・監訳 内藤 徹; JCOHR)

翻訳公開日: 08年4月1日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。